

AOI MORI SHINKIN REPORT
青い森しんきんの現況
2025年3月期 2025
2024年4月1日▶2025年3月31日



経営の基本方針

青い森信用金庫は 次に掲げる基本方針によって経営する

すべての業務活動は基本方針を実現するために行われるものであり、
役職員はこの方針に従い、それぞれの職責を自覚し、その実現に努めなければならない。

01 地域社会に対する貢献

一般大衆ならびに中小企業のための専門金融機関として、金融面から地域社会の発展、地域住民の繁栄に貢献する。

02 調和のある経営

経営活動の基盤は会員、取引者ならびに役職員であり、そのいずれに対しても公正で調和のとれた経営を行う。

03 経営の安定と発展

常に創意と工夫によって、経営の質的向上と合理化を図り、適正な利益の確保と内部蓄積の充実に努める。

金庫訓

青い森信用金庫では、地域のお客さまとの“笑顔”を大切にし、“お客さま第一”での接客応対を目指しております。地域のお客さまから、より一層の“笑顔”をいただけるよう、次のとおり金庫訓「私たちの誓い」を掲げ、役職員一同行動してまいります。

私たちの誓い

1. 私たちの仕事は、お客様に「笑顔」を届けることです
1. 私たちの仕事は、お客様から「笑顔」をいただくことです
1. 私たちの使命は、地域を「笑顔」にすることです

Contents

経営の基本方針	巻頭
ごあいさつ	01
2024年度業績の概要	02
青い森信用金庫と地域社会	04
持続可能な地域社会の実現に向けて	05
中小企業の経営支援のための取組み	06
地域の環境保全のための取組み	09
地域活性化のための取組み	10
2024年度 主なトピックス	12
総代会	13
役員・組織図	16
リスク管理とコンプライアンス体制	17
Q&A お客様のご質問にお答えします	20
業務のご案内	22
各種手数料のご案内	26
資料編	29
店舗のご案内	51
店外ATMのご案内	54
開示項目一覧	55

当金庫のプロフィール

(2025年3月31日現在)

創 立	大正11年12月27日
本店所在地	青森県八戸市大字八日町18番地
出資金	88億8,401万円(優先出資含む)
会員数	70,240名
常勤役職員数	396名
店舗数	37店舗(出張所含む)
営業地区	青森県、秋田県鹿角市のうち 十和田および鹿角郡小坂町



ごあいさつ

理事長

益子 政士

皆様には、平素より青い森信用金庫に対しまして、格別のご理解とお引き立てを賜り心より厚く御礼申し上げます。

本年も、当金庫の経営方針をはじめ、業務内容、財務内容、地域貢献活動等の事業活動をお伝えるためのディスクロージャー誌「青い森しんきんの現況2025」を作成いたしましたので、ご高覧いただき、当金庫をより一層身近な金融機関としてご理解いただければ幸いに存じます。

さて、2024年の青森県経済を振り返ってみますと、過去最多となる大型クルーズ船の寄港やコロナ禍以降運休していた青森・ソウル線及び青森・台北線の国際定期便の運航再開などに伴うインバウンドを中心とした観光需要の高まりに加え、春闘における賃上げ率が30年ぶりに3%を超える高水準となったことなどが経済回復の下支えとなりました。一方、エネルギー価格や物価高騰、労働力不足などが県内企業の経営を圧迫しており、全国同様に給与・賃金の伸びが物価の伸びを下回る状況が続いております。

県内事業者にとりましては、先行きの不透明感が高まる中、コスト増加分の価格転嫁や人材の確保が急務となっており、これらの経営課題に対し、より一層スピード感を持って対応していくことが求められています。また、米トランプ政権の関税政策や、中東情勢の不安定化により世界経済の不確実性が高まっており、今後の動向を注視していく必要があります。

こうした情勢のもと、2024年度決算においては、地域の皆様の信頼に応えるため、経営の効率化や健全化に努めた結果、後掲通りの業績をおさめることができました。これもひとえに総代および会員の皆様をはじめ、お取引先各位のご理解とご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

2025年度も引き続き不透明な状況が続くことが予想されますが、役職員一丸となりお客様の抱える課題解決に共に取り組み、地域社会の持続的な発展に寄与してまいります。

何とぞ今後とも相変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の一層のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げ、ごあいさつといたします。

2025年7月

2024年度業績の概要

預 金

預金残高 **6,307** 億円

預金残高は、前期末比114億円増加し6,307億円となりました。

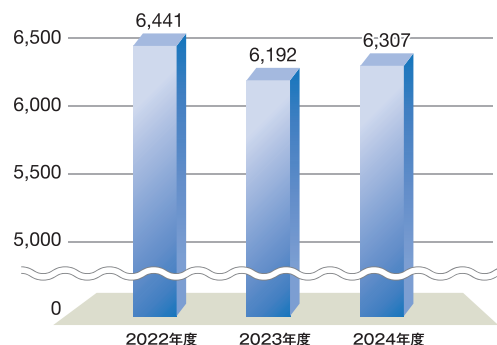
内訳は要払性預金が230億円増加、定期性預金が115億円の減少となりました。

要払性預金は個人預金が72億円増加、法人預金では157億円の増加となりました。

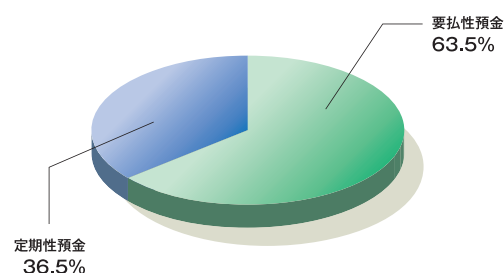
定期性預金は、要払性預金へのシフト等が進み個人預金が108億円減少、法人預金が7億円減少となりました。

●預金残高推移 ※譲渡性預金含む

(単位:億円)



●預金残高構成 (2024年度)



貸 出 金

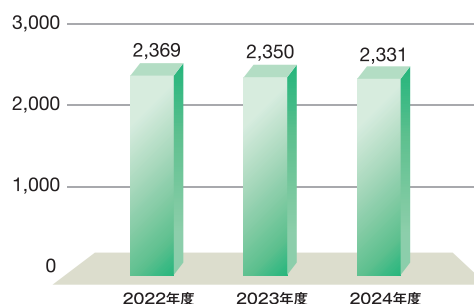
貸出金残高 **2,331** 億円

貸出金残高は、前期末比18億円減少し2,331億円となりました。個人資金は13億円増加しましたが、事業資金が15億円減少し、地方公共団体向け貸出は16億円減少しました。

業種別では、卸売業・小売業で7億円増加、飲食業で6億円増加、金融保険業で4億円増加となりましたが、建設業で21億円減少、不動産業で11億円がそれぞれ減少しております。

●貸出金残高推移

(単位:億円)



2025年3月末現在貸出金残高の構成

総貸出金 233,173百万円の内訳

事業者へのご融資…………… 134,877百万円
うち設備資金…………… 55,972百万円
うち運転資金…………… 78,905百万円

個人へのご融資…………… 71,901百万円
うち住宅資金…………… 47,376百万円
うち消費資金…………… 24,524百万円

地方公共団体へのご融資…………… 26,394百万円

当金庫の2025年3月末の預貸率は **36.96%** です。

有価証券

有価証券残高 **1,479** 億円

有価証券残高は、日本銀行の金融政策の転換により市場環境が大きく変化したことを受けて、大幅なポートフォリオの見直しを行ったことから、前期末比144億円減少し1,479億円となりました。内訳を見ると、外国証券が50億円、投資信託が18億円の増加となりましたが、国債が126億円、社債が99億円の減少などとなりました。

預け金等を含めた余資運用資金全体の残高は前期末比60億円増加し4,044億円となりました。

損益

当期純利益 **9億95** 百万円

経常収益は、貸出金利息収入、預け金利息収入、国債等債券売却益が増加した一方で、有価証券利息配当金や貸倒引当金が戻入から繰入に転じたことなどから前期末比2百万円減少し93億6百万円となりました。

経常費用は、預金利息や貸倒引当金繰入額が増加となりましたが、経費や国債等債券売却損が減少したことなどから前期末比2億39百万円減少し80億83百万円となりました。

これにより経常利益は前期末比2億37百万円増加し12億22百万円となりました。当期純利益は、経常利益が増加したことに加え、減損損失が減少したことなどから、前期末比1億87百万円増加し9億95百万円となりました。

自己資本

自己資本比率 **11.22%**

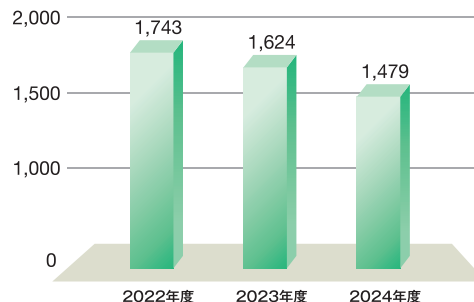
自己資本比率計算の分子にあたる自己資本額は、当期純利益金からの積み上げにより、前期末比6億円増加し270億円となりました。

分母にあたるリスク・アセットは、今期よりバーゼルⅢが完全適用となった結果、コミットメントラインの与信枠10%が加算されたこと等から、前期末比48億円増加の2,406億円となりました。以上の通り、リスク・アセットの増加割合を自己資本額の増加割合が上回ったことから、自己資本比率は前期末比0.06ポイント上昇し11.22%となりました。

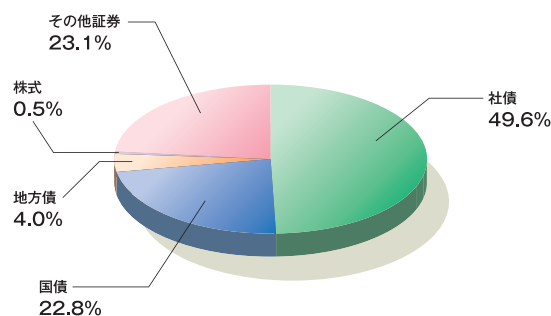
自己資本比率の国内基準である4%を大きく上回る水準を引き続き確保しております。

●有価証券残高推移

(単位:億円)

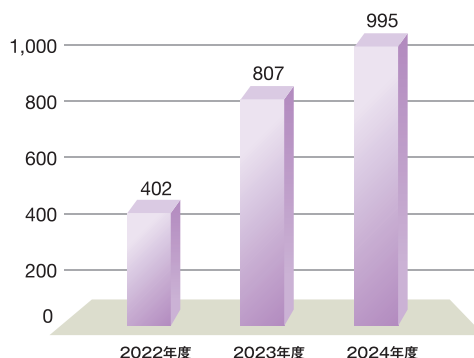


●有価証券残高構成 (2024年度)



●当期純利益推移

(単位:百万円)



●自己資本推移

自己資本額 (オレンジ) 自己資本比率 (緑)

